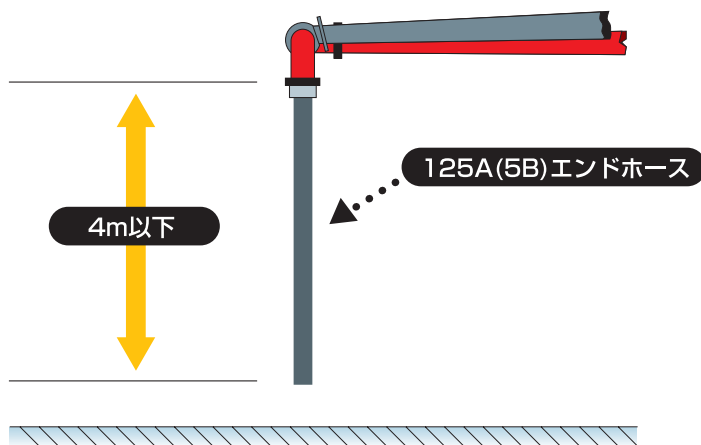


## ブーム作業における厳守事項

コンクリートポンプ車ブーム作業時の安全のため、  
下記の事項を必ずお守りください。

### 1 ブーム先端のエンドホースを完全に吊り下げて打設する場合

ブーム先端のエンドホースはDN125, 125A(5B) の場合4m以下のものを使用してください。もしくは、  
下記具体例に示すような、先端荷重165kgを超えない範囲のエンドホースを装着してください。



#### 許容される先端ホースの具体例

DN125, 125A (5B)	→	エンドホース4m以下
100A (4B)	→	テーパ管1m + エンドホース6m以下
95A (3.75B)	→	テーパ管1m + エンドホース7m以下

\* ドッキングホースを使用しない場合/コンクリート比重2.4ton/m<sup>3</sup>

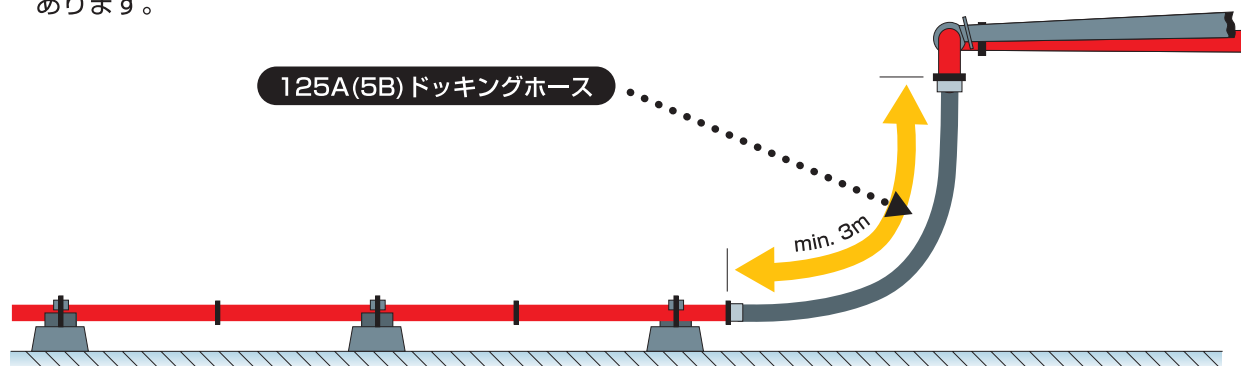


### 警告 WARNING

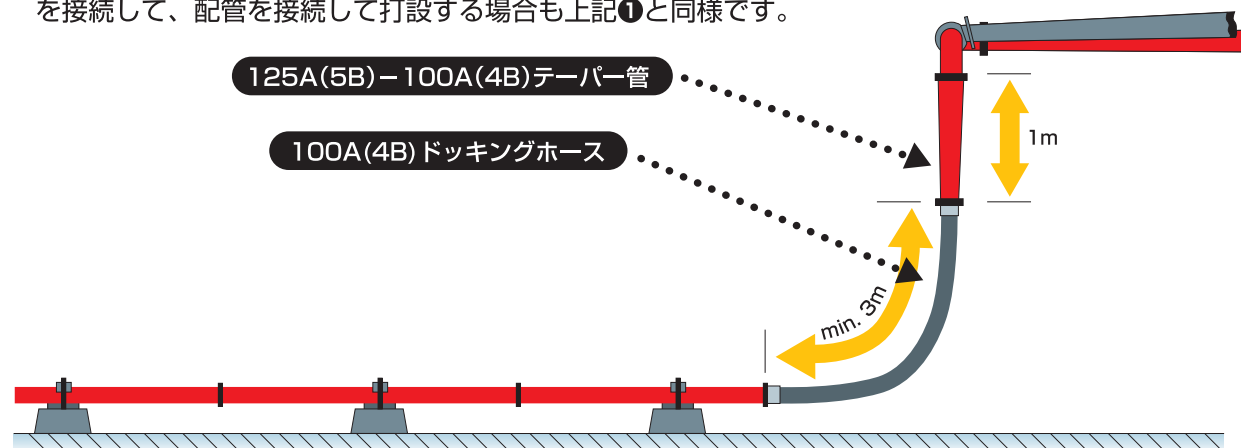
ブーム先端の許容荷重は165kgです。この許容荷重を超える吊り下げ延長配管などは、ブームに過大な負荷がかかり、ブームの折損や機械横転事故などの重大事故を引き起こす恐れがありますので、絶対に行わないでください。

## 2 ブーム先端に配管を接続して打設する場合

- ① ブーム先端にDN125, 125A(5B)のドッキングホースを接続して、配管に接続して打設する場合は、ブームの垂直方向の脈動を吸収するため、3m以上のドッキングホースを使用してください。このとき、ブームがドッキングホースにより引っ張られず、自由に動くように、適切にブーム高さを調整する必要があります。



- ② ブーム先端に125A(5B)－100A(4B)テーパ管を接続し、その先に100A(4B)のドッキングホースを接続して、配管を接続して打設する場合も上記①と同様です。



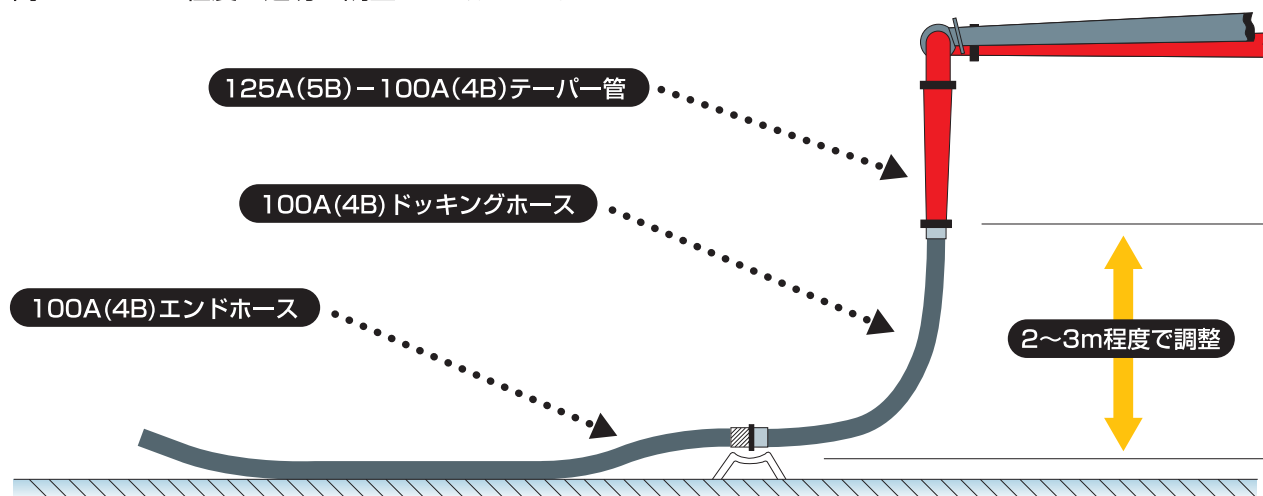
### 警告 WARNING

- ブームの脈動を抑えるために、チェーンなどで固定する事は 絶対に行わないでください。
- ドッキングホースがブーム脈動を吸収するように、ブーム高さを適切に調整してください。
- ブーム先端が目安として60cm程度以上振幅する場合、吐出量を調整し振幅を小さくして、ブームに過負荷がかからないように打設作業を行ってください。

# 3

## ブーム先端にホースを接続して地面に置いた状態で打設する場合

規定以上の長さのホースを接続する場合は、ホースを地面に置いてブーム先端に許容以上の負荷が加わらないように注意して打設を行ってください。このとき、ブームの振幅、反力の吸収を考慮し、ホースジョイントの高さを2～3m程度で適切に調整してください。



### 警告 WARNING

- 規定長さ以上のホースを決して吊り下げないでください。
- 規定以上の長さのホースを接続した場合、ホースを接続したままブームを作動させ、ホースをブームの力で引っ張る事は、絶対に行わないでください。
- ブームの脈動を抑えるために、チェーンなどで固定する事は 絶対に行わないでください。  
ブーム先端が目安として60cm程度以上振幅する場合、吐出量を調整し振幅を小さくして、ブームに過負荷がかからないように打設作業を行ってください。

## 4 その他の注意事項

ブームの折損事故は、日頃の正しい使用方法で大半が防ぐことができます。  
コンクリートポンプ車のブームは、許容以上の負荷をかけたらすぐに壊れるものではありません。しかし、許容以上の負荷の積み重ねによってブームの寿命は確実に短くなっていきます。日頃から、ブーム先端には過負荷がかからないように注意して、長い期間安全に機械を使用できるように心がけてください。



### 危険 DANGER

- ブームが折損したり、マシンが転倒したりした場合、重大な人身事故につながる恐れがあります。ブーム直下での作業は、絶対に行わないでください。
- ブームで打設作業を行う場合は、すべてのアウトリガーを規定通りにセットしてください。
- ブーム、アウトリガーなどの異常は、重大事故に繋がる恐れがあるので、機械を使用する前には必ず点検をしてから作業を開始してください。
- ブーム、アウトリガーに亀裂等の異常が発見された場合は、速やかに作業を中止し指定工場にて修理を行ってください。